

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/012868

International filing date: 12 July 2005 (12.07.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2005-094079
Filing date: 29 March 2005 (29.03.2005)

Date of receipt at the International Bureau: 25 August 2005 (25.08.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 5 年 3 月 2 9 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 5 - 0 9 4 0 7 9

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 5 - 0 9 4 0 7 9

出 願 人
Applicant(s): シー・コム株式会社

2 0 0 5 年 8 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



| | |
|-----------------|---|
| 【書類名】 | 特許願 |
| 【整理番号】 | L9X14109 |
| 【提出日】 | 平成17年 3月29日 |
| 【あて先】 | 特許庁長官殿 |
| 【国際特許分類】 | A41D 1/00 |
| 【発明者】 | |
| 【住所又は居所】 | 大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F シー・コム株式会社内 |
| 【氏名】 | 内堀 弘 |
| 【発明者】 | |
| 【住所又は居所】 | 大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F シー・コム株式会社内 |
| 【氏名】 | 西上 節也 |
| 【特許出願人】 | |
| 【識別番号】 | 399088474 |
| 【住所又は居所】 | 大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F |
| 【氏名又は名称】 | シー・コム株式会社 |
| 【代表者】 | 内堀 弘 |
| 【代理人】 | |
| 【識別番号】 | 100080621 |
| 【弁理士】 | |
| 【氏名又は名称】 | 矢野 寿一郎 |
| 【電話番号】 | 06-6944-0651 |
| 【先の出願に基づく優先権主張】 | |
| 【出願番号】 | 特願2004-208966 |
| 【出願日】 | 平成16年 7月15日 |
| 【手数料の表示】 | |
| 【予納台帳番号】 | 001890 |
| 【納付金額】 | 16,000円 |
| 【提出物件の目録】 | |
| 【物件名】 | 特許請求の範囲 1 |
| 【物件名】 | 明細書 1 |
| 【物件名】 | 図面 1 |
| 【物件名】 | 要約書 1 |

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

主布の裏側に副布を縫い合わせることにて切り抜こうとする部分を囲むステッチを形成する工程と、

前記ステッチに囲まれた主布を、ステッチから所定の巻き上がり代を残して切り抜く工程とを、

含むことを特徴とする切抜模様形成方法。

【請求項 2】

前記主布を編地とし、前記副布を編地、織布地又は不織布地のいずれかとする、請求項 1 に記載の切抜模様形成方法。

【請求項 3】

前記主布は、切抜模様を施せば完成品となるものの構成布である、

請求項 1 又は請求項 2 に記載の切抜模様形成方法。

【請求項 4】

主布に形成された切抜と、

前記切抜の周縁から所定の巻き上がり代だけ外側に施されたステッチと、

前記切抜を通じて主布の表面に現れる副布と、

前記巻き上がり代の巻き上がりとから成る切抜模様の布。

【請求項 5】

前記主布を編地とし、前記副布を編地、織布地又は不織布地のいずれかとする、

請求項 4 に記載の切抜模様の布。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 切抜模様形成方法及び切抜模様の布

【技術分野】

【０００１】

本発明は、布に切抜模様を形成する方法及びこの方法にて切抜模様の形成された布に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、ジーンズなどの織布地で成る衣服において、布の切縁を纏らずに切り放しとして布の表面に露出させ、ほつれた切縁を装飾の一部とする服飾デザインが知られている。また、Ｔシャツ等の編地で成る衣服において、脇や袖等の縫合部分を表側に露出させ、巻き上がった切縁を装飾の一部とする服飾デザインが知られている。

これらの切縁を装飾の一部とする服飾デザインは、ルース感を醸しだし、主に若者に広く受け入れられている。

【０００３】

また、従来、布の一部を切り抜いて、切り抜いた部分から他の布を露出させる装飾技術が知られている。

例えば、特許文献１では、切り抜いた布の開口から他の布を露出させ、立体感ある模様を布に構成する方法が提案されている。ここでは、シート体（布等）に模様形成用の開口を設け、該開口の裏面側に、模様が施されるとともに充填物が充填されて立体的凹凸が形成された模様片を貼り付け、模様片の立体形状をシート体の開口より覗かせるようにしている。

【特許文献１】 実開平５－６０３１４号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

上記特許文献１では、「模様片がシート体の裏面側に取り付けられるにもかかわらず、シート体の開口の縁は、模様片の膨らみに覆われる状態となって目に触れず、見映えが向上される」という効果がうたわれている。すなわち、開口の縁に位置する布の切縁は装飾ではなく単に布が切り替わる境界として存在しているに過ぎない。

そこで、本発明では、布の切縁が装飾の一部として有効に取り入れた、個性的且つ斬新に布を装飾する切抜模様が施された布及びこの切抜模様の形成方法について提案する。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段を説明する。

【０００６】

即ち、請求項１においては、主布の裏側に副布を縫い合わせることにて切り抜こうとする部分を囲むステッチを形成する工程と、前記ステッチに囲まれた主布を、ステッチから所定の巻き上がり代を残して切り抜く工程とを、含む切抜模様形成方法である。

【０００７】

請求項２においては、前記主布を編地とし、前記副布を編地、織布地又は不織布地のいずれかとするものである。

【０００８】

請求項３においては、前記主布は、切抜模様を施せば完成品となるものの構成布であるものである。

【０００９】

請求項４においては、主布に形成された切抜と、前記切抜の周縁から所定の巻き上がり代だけ外側に施されたステッチと、前記切抜を通じて主布の表面に現れる副布と、前記巻き上がり代の巻き上がりとから成る切抜模様の布である。

【0010】

請求項5においては、前記主布を編地とし、前記副布を編地、織布地又は不織布地のいずれかとするものである。

【発明の効果】

【0011】

本発明の効果として、以下に示すような効果を奏する。

【0012】

請求項1においては、自由な形状の切抜模様を簡易に布に形成することができる。また、形成された切抜模様は、主布に形成された切抜を通じて副布が布の表側に現れ、切抜の周縁には、主布に残された巻き上がり代の巻き上がりによる立体的ラインが形成される。さらに、主布の切縁のほつれ止め処理が不要であるので、作業工程が少なく、作業が簡易である。

【0013】

請求項2においては、主布に残された巻き上がり代が巻き上がり、立体的ラインが形成される。また、主布と副布の切替部分に形成された立体的ラインは、曲線状の無造作なものとなる。

【0014】

請求項3においては、布に施された絵柄を分断する切抜模様を形成することが可能となり、また、衣服等の縫合部分に連続する切抜模様を簡易に形成することができる。

【0015】

請求項4においては、主布の切縁の巻き上がりは、切抜模様を個性的且つ斬新なものとする装飾の一部となり、切抜模様の布にルース感を醸し出させることができる。

【0016】

請求項5においては、主布に残された巻き上がり代の巻き上がりによる立体的ラインは、曲線状の無造作なものとなり、ルース感を醸し出すことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

次に、発明の実施の形態を説明する。

図1は本発明の一実施例に係る切抜模様を形成したシャツを示す図、図2は切抜模様の拡大図、図3は切抜模様形成方法を説明する流れ図、図4は切抜模様形成方法を説明する図である。

図5は絵柄を分断する切抜模様を形成したシャツを示す図である。

図6は袖と見頃にわたって形成された切抜模様を示す図、図7は袖と見頃にわたる切抜模様形成方法を説明する図である。

図8は分断したライン状に形成された切抜模様を示す図、図9は分断したライン状の切抜模様形成方法を説明する図である。

図10は十字形状に形成された切抜模様を示す図、図11は十字形状の切抜模様形成方法を説明する図である。

【0018】

図1では、本発明の実施例に係る切抜模様の布で成る製品の一例として、編地（ニット・メリヤス等）のシャツ10を示している。

但し、切抜模様の布を適用する製品は、シャツ、パンツやジャケット等の衣服に限定されず、マフラー、スカーフや鞆等の服飾雑貨など、布製品に広く適用させることができる。

【0019】

図1に示す如く、シャツ10には縞模様が形成されている。

シャツ10の縞模様は、図2にも示すように、プリントや生地 of 編み糸の色を変化させて形成されるのではなく、主布17と副布16との、少なくとも複数の種類（柄・色）の布を縫合させることにより立体的に形成された、複数のライン状の切抜模様30・・・により形成されている。

【 0 0 2 0 】

主布 1 7 の裏側には、縞の幅よりやや大きい幅を有する副布 1 6 が縫いつけられ、主布 1 7 と主布 1 7 との間の切抜 3 2 から副布 1 6 が布の表側に現れている。

【 0 0 2 1 】

主布 1 7 に切抜 3 2 を形成することにより生じる主布 1 7 の切縁 1 7 a は、纏られることなく、切り放しとされ、布の表側に露出している。これにより、主布 1 7 の切縁 1 7 a は編地の特性上、巻き上がり、これが布の表側に表れて縞の上下の切替部分に立体的なラインが形成される。主布 1 7 の切縁 1 7 a の巻き上がりは無造作であり、これにより、主布 1 7 と副布 1 6 の切替部分は、直線ではなく曲線状に布の表側に現れることとなる。

【 0 0 2 2 】

主布 1 7 の生地は、編地であり、天竺、リブ、パール、ピンタック、ラーペン、振り、片畝、両畝、矢振り、ジャカード、レース柄、インターシャー、プレーティング、起毛などの柄の編地とすることができる。

なお、副布 1 6 の生地は、編地に限定されるものではなく、織布地や不織布地とすることができる。主布 1 7 と副布 1 6 の生地に違いを設けることで、布に色柄だけでなく質感が異なる切抜模様 3 0 を形成することができる。

【 0 0 2 3 】

次に、布への切抜模様形成方法について図 3 の流れ図を用いて説明する。

【 0 0 2 4 】

まず、図 4 (a) に示すように、主布 1 7 の裏側に副布 1 6 を縫いつける (S 1 1) 。主布 1 7 に形成しようとする切抜 3 2 の周囲を縫うことによって、主布 1 7 と副布 1 6 が縫いつけられ、これにより、主布 1 7 の表側に現れるステッチ 3 1 が形成される。ステッチ 3 1 には、主布 1 7 と同一色の糸を用いてもよいし、主布 1 7 と異なる色の糸を用いて、飾りステッチ 3 1 とすることもできる。

なお、図 1 に示すシャツ 1 0 に切抜模様 3 0 を施す場合は、シャツ 1 0 の形状を為したシャツ (模様を施せば完成品となるもの) の構成布を主布 1 7 とし、シャツの構成布の裏面に副布 1 6 を縫いつける。

【 0 0 2 5 】

続いて、後述する留めステッチ 3 1 a を切抜模様 3 0 に形成しない場合は (S 1 2) 、図 4 (b) に示すように、主布 1 7 に切り込みを入れたり切り取ったりして、主布 1 7 に切抜 3 2 を形成する (S 1 3) 。

【 0 0 2 6 】

切抜 3 2 を形成するに当たって、切抜 3 2 により生じる主布 1 7 の切縁 1 7 a からステッチ 3 1 までの間に、所定の幅 (以下、『巻き上がり代』と示す) だけ主布 1 7 が残される。すなわち、ステッチ 3 1 から巻き上がり代を残して、主布 1 7 を切り取って、切抜 3 2 を形成し、該切抜 3 2 の周縁 (主布 1 7 の切縁 1 7 a) から巻き上がり代だけ外側にステッチ 3 1 が位置することになる。

【 0 0 2 7 】

主布 1 7 の切縁 1 7 a は、ほつれ止めを目的とする処理 (例えば、纏ったり、接着固定したりする処理) を施さずに、切り放しとする。そして、この切り放しとされた主布 1 7 の切縁 1 7 a を縮ませれば (S 1 5) 、布に切抜模様 3 0 が形成される。

【 0 0 2 8 】

上述のように、切抜 3 2 を主布 1 7 に形成することにより生じる主布 1 7 の切縁 1 7 a は、纏られることなく切り放しとされるので、切抜 3 2 を形成して主布 1 7 の切縁 1 7 a を縮ませることにて、図 4 (b) に示すように、ステッチ 3 1 から切縁 1 7 a までの主布 1 7 (主布 1 7 の巻き上がり代に当たる部分) は、布の表側に巻き上がる。切縁 1 7 a の巻き上がりは、強制的に加工するのではなく、布地の特性を活かしたものであるため、巻き上がりは無造作なものとなり、これにより、主布 1 7 と副布 1 6 の切替部分は、直線ではなく曲線として布の表側に現れ、うねる縞が形成されることとなる。

【 0 0 2 9 】

このように主布１７の切縁１７aの巻き上がりは、切抜模様３０を個性的且つ斬新なものとする装飾の一部となり、切抜模様３０の布にルース感を醸し出させることができる。また、切縁１７aのほつれ止め処理が不要であるので、作業工程が少なく、作業が簡易となる。

【００３０】

なお、巻き上がり代は、切抜３２の範囲を切抜模様３０に応じて適宜調整することが好ましく、また、同一の切抜模様３０の巻き上がり代はほぼ均一となるようにすることが好ましい。

巻き上がり代を略一定として、布の表面に現れる主布１７の切縁１７aの巻き上がりのボリュームを、略一定にして美感を高めるためである。

【００３１】

例えば、図１に示すシャツ１０に切抜模様３０を施す場合は、先ほどのステッチ３１に囲まれた主布１７に線状の切り込みを入れ、これを切抜３２とする。但し、シャツに形成される縞の幅が大きいときは、ステッチ３１に囲まれた主布１７をステッチ３１から略一定の巻き上がり代を残して帯状に切り取り、これを切抜３２とする。

【００３２】

上述のように形成される切抜模様３０では、模様を施せば完成品となるもの（図１に示すシャツ１０であれば、シャツの形状を為したものの）の構成布を主布１７としている。

これにより、例えば、図５に示すように、絵柄のプリントされたシャツの構成布の絵柄部分に、絵柄を分断させる縞柄を切抜模様３０にて形成することができる。縞柄の縞と縞との間に一区切りの絵柄を付すのではなく、絵柄を立体的な縞にて分断することにより、絵柄と縞柄とを同じ範囲に共に主張させたながら共存させることができる。

【００３３】

また、例えば、図６に示すように、シャツの袖と見頃との縫い合わせ目を通るライン状の切抜模様３０を形成することも簡易である。この場合、図７（a）に示すように、シャツの形状を為したシャツの構成布を主布１７とし、その袖１２と見頃１１にわたって連続する副布１６を縫いつけ、形成しようとする切抜３２の周囲にステッチ３１を施す。そして、図７（b）に示すように、ステッチ３１に囲まれた部分の主布を、ステッチ３１から巻き上がり代を残して切り取って切抜３２を形成し、切縁１７aを縮ませれば、巻き上がり代として残されたステッチ３１から切縁１７aまでの主布１７が表側に巻き上がり、切抜模様３０が形成される。

【００３４】

なお、上述の切抜模様３０にて形成され得る模様は連続するライン状に限定されない。

例えば、図８に示すように、分断されたライン状の切抜模様３０を形成することもできる。

【００３５】

この場合、布への切抜模様３０形成方法について図３の流れ図を用いて説明すると、まず、図９（a）に示すように、主布１７の裏側に副布１６を縫いつけ、形成しようとする切抜３２の周囲にステッチ３１を施す（Ｓ１１）。

続いて、図９（b）に示すように、ステッチ３１に囲まれた部分に、留めステッチ３１aを形成する（Ｓ１４）。本実施例においては、×形状の留めステッチ３１aを施しているが、多角形や円、点などの、ステッチ３１とすることもできる。

最後に、図９（c）に示すように、ステッチ３１と留めステッチ３１aとに囲まれた主布１７をステッチ３１から巻き上がり代を残して切り取り、これを切抜３２とする（Ｓ１３）。このように切抜３２を形成し、該切抜３２の周囲に位置する切縁１７aを縮ませれば（Ｓ１５）、ステッチ３１から切縁１７aまでの主布１７が表側に巻き上がり、分断されたライン状の切抜模様３０が形成される。

【００３６】

また、上述の切抜模様３０にて形成され得る模様はライン状に限定されない。

例えば、図１０に示すように、くさび十字形状の切抜模様３０を形成することもできる。

この場合、図 1 1 (a) に示すように、主布 1 7 の裏側に副布 1 6 を縫いつけ、形成しようとする切抜 3 2 の周囲にステッチ 3 1 を施す。続いて、図 1 1 (b) に示すように、ステッチ 3 1 に囲まれた主布 1 7 をステッチ 3 1 から巻き上がり代を残して切り取って切抜 3 2 を形成すれば、やがてステッチ 3 1 から切抜 3 2 の切縁 1 7 a までの主布 1 7 が表側に巻き上がり、くさび十字形状の切抜模様 3 0 が形成される。

上述のようにして、例えば、多角形、丸、ハート、クローバー等の様々な形状の切抜模様 3 0 を布に形成することができる。

【0 0 3 7】

以上に示すように、本発明に係る切抜模様形成方法を実施することにて切抜模様を形成すれば、自由な形状の切抜模様 3 0 を簡易に布に形成することができる。

また、このようにして形成された切抜模様 3 0 は、主布 1 7 に形成された切抜 3 2 を通じて副布 1 6 が布の表側に現れ、切抜 3 2 の周縁には、主布 1 7 の切縁 1 7 a とステッチ 3 1 との間に残された巻き上がり代の巻き上がりによる立体的ラインが形成されている。つまり、主布 1 7 と副布 1 6 による布の切り替わりと、布の切替部分に形成された立体的ラインにて、切抜模様 3 0 が形成される。そして、布の切替部分に形成された立体的ラインは、曲線状の無造作なものであり、主布 1 7 と副布 1 6 とが直線的に分断されるのではなく曲線的に緩やかに切り替わるように感じ取られるため、デザインのルース感をより一層高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0 0 3 8】

【図 1】 本発明の一実施例に係る切抜模様を形成したシャツを示す図。

【図 2】 切抜模様の拡大図。

【図 3】 切抜模様形成方法を説明する流れ図。

【図 4】 切抜模様形成方法を説明する図。

【図 5】 絵柄を分断する切抜模様を形成したシャツを示す図。

【図 6】 袖と見頃にわたって形成された切抜模様を示す図。

【図 7】 袖と見頃にわたる切抜模様形成方法を説明する図。

【図 8】 分断したライン状に形成された切抜模様を示す図。

【図 9】 分断したライン状の切抜模様形成方法を説明する図。

【図 1 0】 十字形状に形成された切抜模様を示す図。

【図 1 1】 十字形状の切抜模様形成方法を説明する図。

【符号の説明】

【0 0 3 9】

1 6 副布

1 7 主布

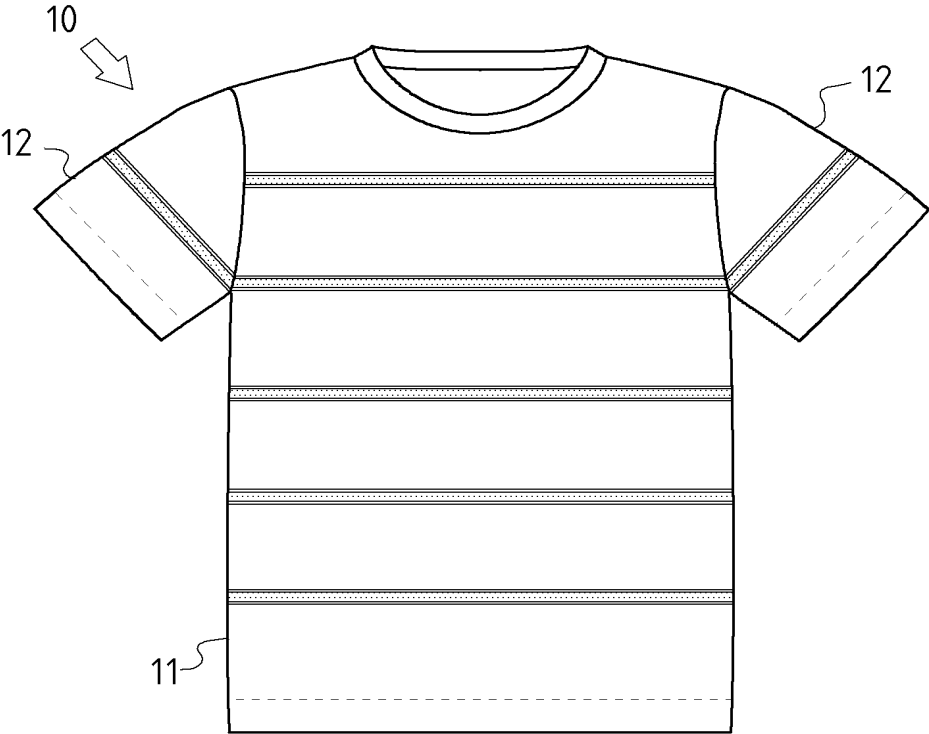
1 7 a 切端

3 0 切抜模様

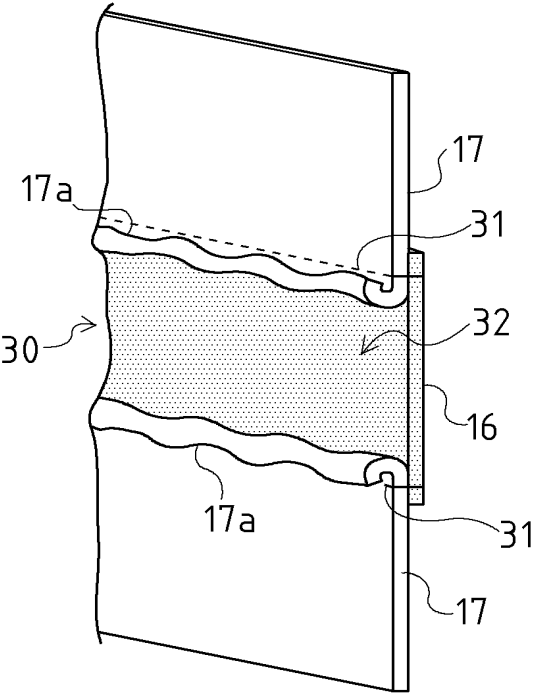
3 1 ステッチ

3 1 a 留めステッチ

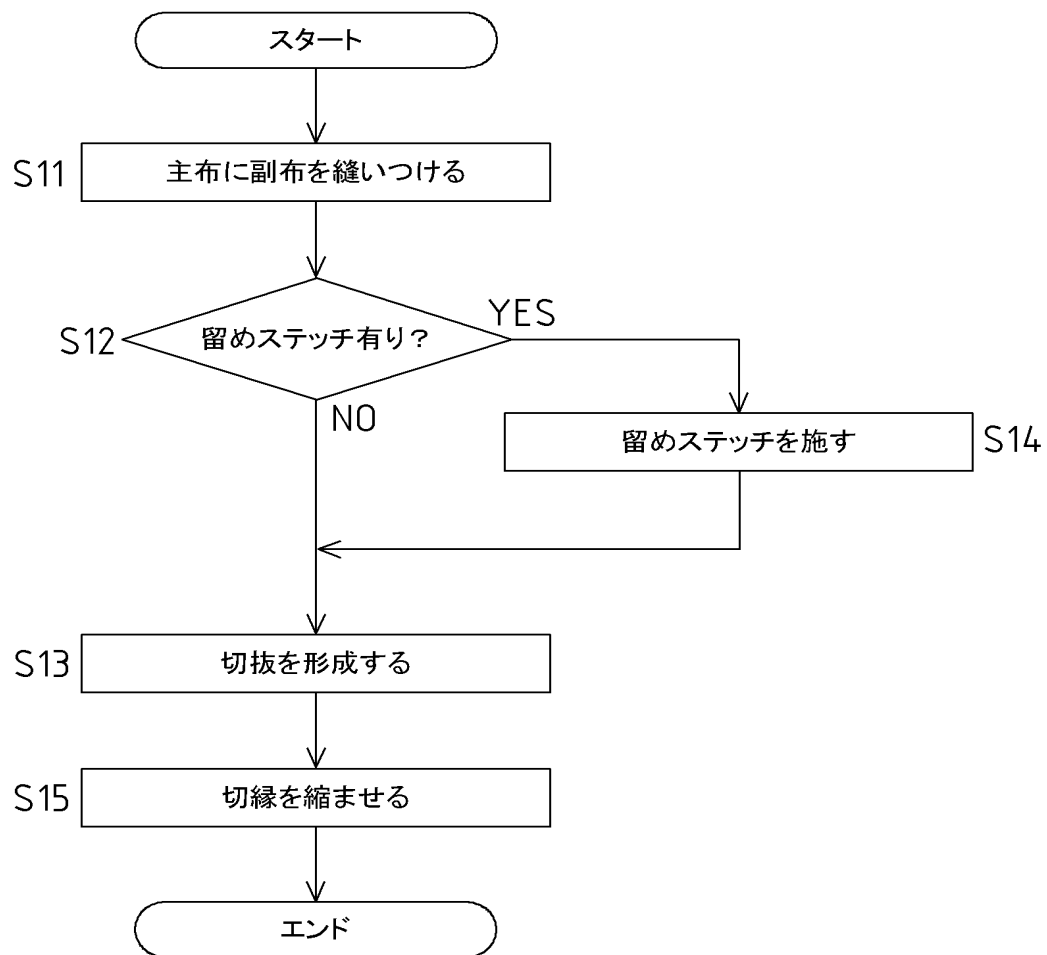
3 2 切抜

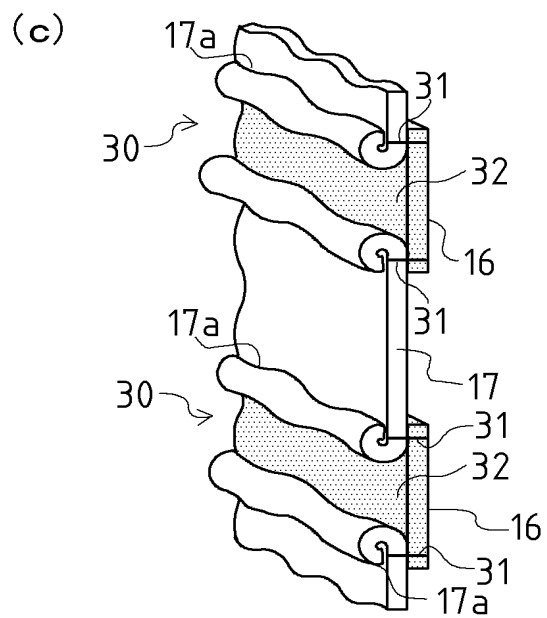
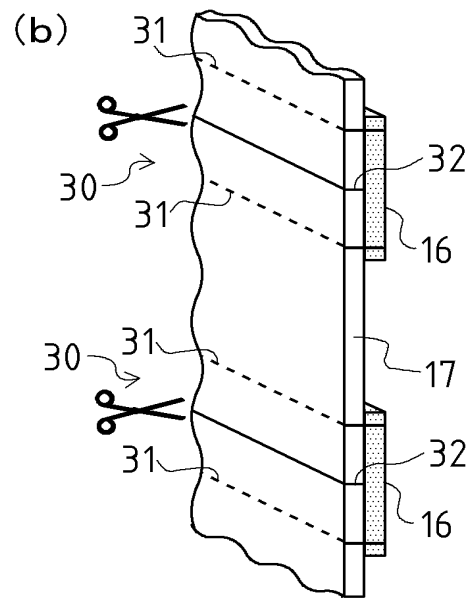
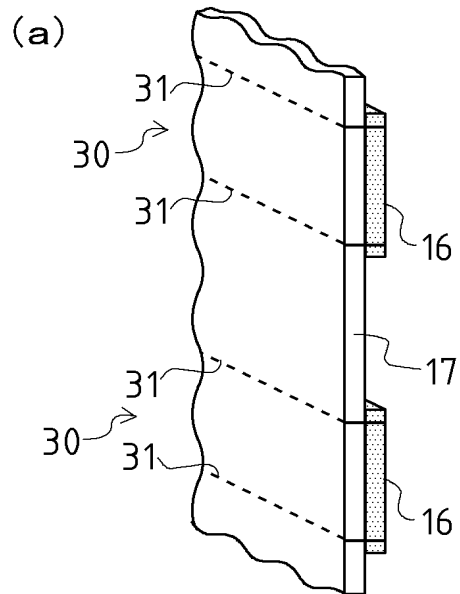


【図 2】



【図 3】



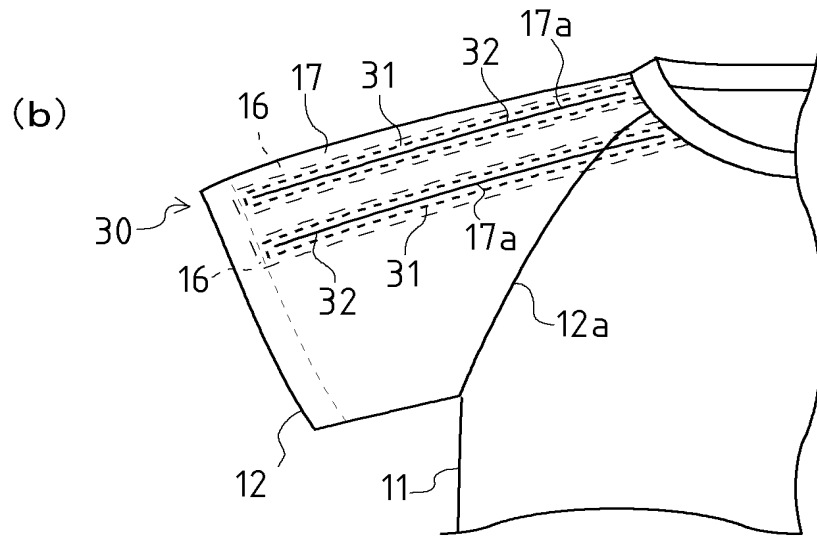
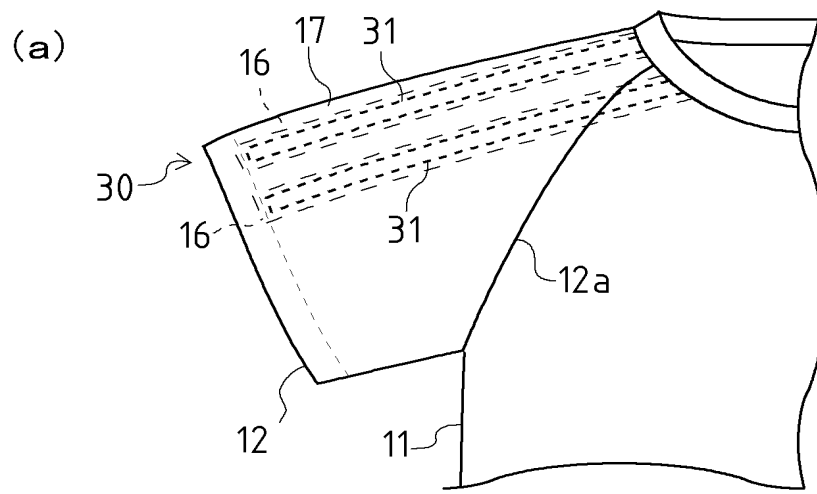


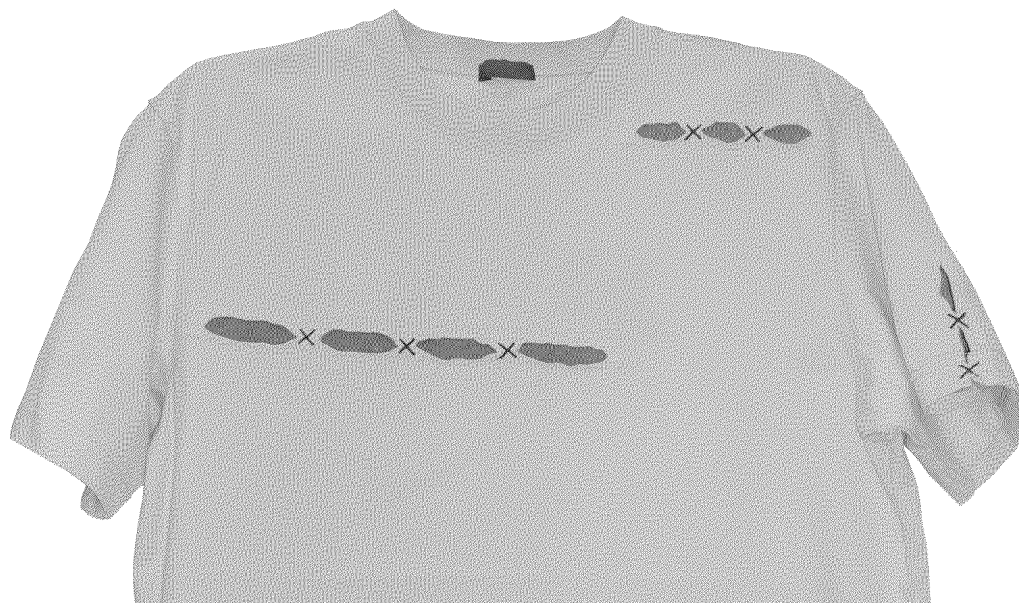
【图 5】

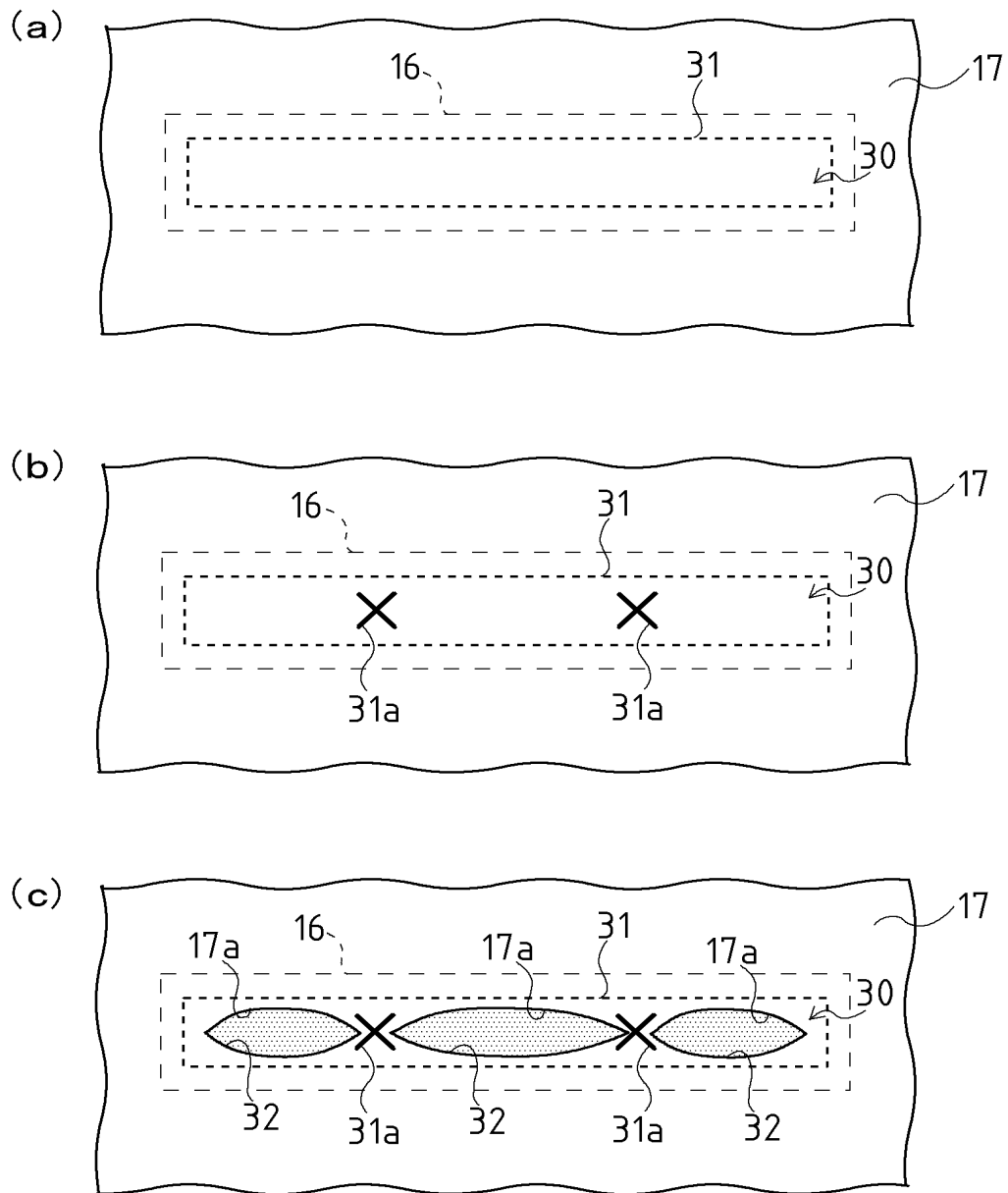


【图 6】







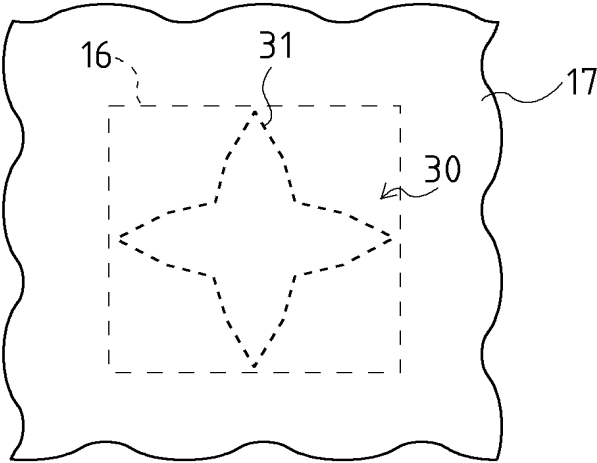


【図 1 0】

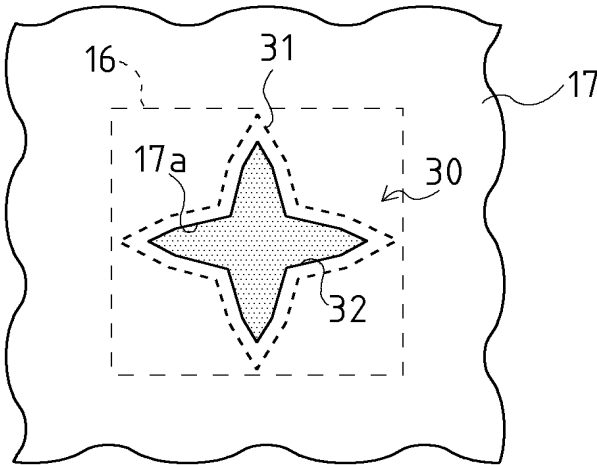


【図 1 1】

(a)



(b)



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 布の切縁が装飾の一部として有効に取り入れた、個性的且つ斬新に布を装飾する切抜模様が施された布及びこの切抜模様の形成方法について提案する。

【解決手段】 主布 17 の裏側に副布 16 を縫い合わせることにて切り抜こうとする部分を囲むステッチ 31 を形成する工程と、前記ステッチ 31 に囲まれた主布 17 を、ステッチ 31 から所定の巻き上がり代を残して切り抜く工程と、主布 17 の切縁 17 a を縮ませる工程とで、布に切抜模様 30 を形成した。切抜模様 30 は、主布 17 の切抜 32 を通じて副布 16 が布の表側に現れ、切抜 32 の周囲には主布 17 の切縁 17 a とステッチ 31 との間の巻き上がり代の巻き上がり代による立体的ラインが形成される。

【選択図】 図 3

| | |
|-----------|---------------|
| 【書類名】 | 手続補正書 |
| 【提出日】 | 平成17年 5月18日 |
| 【あて先】 | 特許庁長官 小川 洋 殿 |
| 【事件の表示】 | |
| 【出願番号】 | 特願2005- 94079 |
| 【補正をする者】 | |
| 【識別番号】 | 399088474 |
| 【氏名又は名称】 | シー・コム株式会社 |
| 【代理人】 | |
| 【識別番号】 | 100080621 |
| 【弁理士】 | |
| 【氏名又は名称】 | 矢野 寿一郎 |
| 【電話番号】 | 06-6944-0651 |
| 【発送番号】 | 044485 |
| 【手続補正1】 | |
| 【補正対象書類名】 | 特許願 |
| 【補正対象項目名】 | 提出物件の目録 |
| 【補正方法】 | 追加 |
| 【補正の内容】 | |
| 【提出物件の目録】 | |
| 【物件名】 | 委任状 1 |

【添付書類】

1 209

委任状

平成17年5月12日

私（私ども）は、識別番号100080621 弁理士 矢野 寿一郎 氏を以て代理人として下記事項を委任します。

記

1. 特願2004-208966に関する手続
1. 上記出願に基づく特許法第41条第1項又は実用新案法第8条第1項の規定による優先権の主張及びその取下げ
1. 上記出願に関する出願の変更、出願の放棄及び出願の取下げ
1. 上記出願に関する拒絶査定に対する審判の請求及び取下げ
1. 上記出願に関する補正却下の決定に対する審判の請求及び取下げ
1. 上記出願に係る特許権、実用新案権、意匠権、商標権又は防護標章登録に基づく権利及びこれらに関する権利に関する手続並びにこれらの権利の放棄
1. 上記出願に関する特許法第64条の2第1項の規定による出願公開の請求
1. 上記出願に係る商標（防護標章）登録に対する登録異議の申立てに関する手続
1. 上記出願に係る特許、特許権の存続期間の延長登録、意匠登録、商標登録、防護標章登録又は商標（防護標章）更新登録に対する無効審判の請求に関する手続
1. 上記出願に係る特許権に関する訂正の審判の請求及び取下げ
1. 上記出願に係る商標登録に対する取消しの審判の請求に関する手続
1. 上記各項の手続に関する請求の取下げ、申請の取下げ又は申立ての取下げ
1. 上記各項に関し行政不服審査法に基づく諸手続をなすこと
1. 上記各項の手続を処理するため、復代理人を選任及び解任すること

住所（居所） 大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号
ビジネスゾーン本町西4F

氏名（名称） シー・コム株式会社

代表者 代表取締役 内堀 弘



出願人履歴

3 9 9 0 8 8 4 7 4

20030501

住所変更

大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町
西4F

シー・コム株式会社